

2026年度 第12回 三井のリハウス東京都U-12サッカーリーグ

東京都第11ブロック大会

【リーグ戦の趣旨】

少年期における子供たちの健全なる心身の発達を願い、技術、戦術、マナー、そしてサッカーのゲームを楽しみ、愛する心を育てる。8人制の試合をすることにより、「判断」へのアプローチ場面を多くし、いろいろなポジションを経験しながら個々の「技術」の質を高める。育成を目指し、多くの選手に試合経験を与えることとする。

主催 公営財団法人東京都サッカー協会

主管 東京都少年サッカー連盟

協賛 三井不動産リアルティ株式会社

東京都第11ブロック大会要項細則

1. 開催日

前期リーグは 2026年4月12日から、同年6月14日まで

後期リーグは 2026年9月6日から、同年12月20日までとし、(推薦締切り 12/末)

後期1部リーグの1位を東京都3部昇格リーグ(2027年2月11日、15日清瀬内山)に推薦する。

10月4日からの『全日本U-12選手権』は、前期リーグの結果を基に組合せを作成する。

2. 会場

町田市・多摩市・稲城市それぞれと参加チームの提供した会場で開催する。

3. 参加資格

a,2026・東京都少年サッカー連盟大会要項「中央大会・ブロック大会共通事項」に準じる

b,参加チームは大会実施年度に日本サッカー協会(以下本協会)第4種に加盟したチームであり、小学校6年生主体で構成された単一チームに限られ、年間を通じて継続的に稼働していること。5年生以下だけでの選手編成も認めるが、健康・体格・体力・技能を十分に考慮したチームの責任において出場させること。

c,所属選手は大会前に『登録用紙兼メンバー表』に必要事項を記載し、顔写真のある選手証一覧と共に「ブロック申請先 entry@11b.tokyo」に添付送信して事前**承認印を受ける**。

追加登録や登録抹消選手(移籍含む)の都度、再度申請し承認印を受けなければならない。

d,試合の都度承認印が押印された『登録用紙兼メンバー表』と、顔写真のある『web選手証一覧』を印刷して、FP,GKそれぞれ(FPとGKはショーツ、およびソックスは異なる色)の正副のユニフォーム各1setと共に、自チームの最初の試合の30分前までに必要事項を追記して本部運営に提示する。

(JFAへの追加申請は平日なら3日ほどで承認される。支払いは前期後期の末に纏めて行う)

e,会場の提供や運営(準備・後片付け等)大会運営に協力できるチームであること。

例)会場提供市やチームの指示のもと第1試合の両チームが会場作りを担当し、最終試合の両チームが後片付けを行う事が原則だが、2面ある会場などは第2試合までの4チームで会場作りや、最後の2試合の4チームで後片付けを行う事や、メジャーなどの備品の持参を参加チームに要請する場合もあるので、全チーム常に協力体制でいること。

f,リーグ戦運営に非協力的なチームの報告等があった際は、東京都少年連盟規律委員会でその審議を行い、当該チームへ裁定を下すこととする。

g,参加選手は6年生主体で8人以上とする。複数チームをエントリーする場合は6年生のみで16人以上必要で、下級生の登録をすることは出来ないが、運営の都合上ブロックに要請されて複数チームエントリーする場合はその限りではない。

帯同指導者は（要請された場合以外）複数チームを兼務できないが代表者は兼務できる。

複数チームのチーム内での選手の組み換えは、前期リーグ終了後から**8月20日**までとし、それまでに選手登録を完了したら、2チームとも『全日本U-12選手権』に出場することができる。

ブロックより複数を要請されたチームは、『全日本U-12』に1チームにて出場できる。

h,移籍については2026年度連盟大会要項『移籍規定』に準じる。

移籍元チームはkickoffより登録抹消手続きをしJFA承認を受けること。移籍元・移籍先チームは各ブロック委員長に、今後の大会参加に問題ないか確認する。

前後期関わらずいつでも移籍して移籍先のチームでリハウスリーグに出場できるが、移籍先で『全日本U-12選手権』に出場するためには8月20日までに移籍を完了していなければならない。

移籍に疑義や不明点がある場合、移籍先ブロック委員長は「移籍報告書」を東京都少年連盟に提出して、確認、協議をする事になるが、その間は移籍先で試合に参加することは出来ない。

4. 引率指導者及び登録用紙

a,本協会公認指導者資格D級以上を有する2名以上5名以下の成人の指導者がベンチ入り出来ることが必須だが、4人審判制を採用している11ブロックの「リハウスリーグ」は、指導者資格を有する指導者が1名以上いれば、その他は「JFAID取得者」がベンチ入りすることが出来る。他のブロック大会では基本ベンチ入りは全て指導者資格を有する指導者に限る。3人目から5人目の内1名は資格を有しない『メディカルスタッフ』としてベンチ入りできる。

b,印刷して作成した『指導者証』やJFAID』及び『メディカル証』は、それぞれ首掛け式カードホルダーに入れて会場では常時掲示していなければならない。

指導者資格を有する者は『指導者証』を掲示し、メディカルとしてベンチ入りしない。

c,ベンチ入り指導者は登録用紙兼メンバー表に氏名・指導者証番号又はJFEID番号・責任順位を記載するが、メディカルスタッフは氏名のみの記載でよい。

d,登録用紙兼メンバー表は、前以て指定された登録情報を記載したものを、申請用アドレス(entry@11b.tokyo)にexcelで添付送信し、競技部が内容確認し承認印を押印してpdfで返送されたものを、試合の開催日ごとに印刷して使用しなければならない。申請時に必須な記載情報は、チーム名・代表者名・連絡者名と連絡先・選手の学年・氏名・選手証番号で、その他の必要事項は印刷後の手書き記載でも良い。

e,移籍を含む登録の追加や抹消は、その都度登録用紙兼メンバー表を更新して再度承認を受ける。リハウスリーグの場合は「移籍はいつでも可能」だが、全日本U-12に出場するためにはリハウス前期終了後8/20までに移籍を完了しなければならない。移籍後の参加に関してはブロック委員長に確認する。

f,登録用紙兼メンバー表の【移籍欄】に移籍元のチーム名と移籍完了日を記載し、再申請して承認印を受けなければならない。移籍ではない新規追加登録も再申請する。

g,登録用紙兼メンバー表の指導者名の左側の欄には、当日のベンチ入り指導者の責任上位順に①②③④⑤と順位を記載する。主審の判別のためベンチで①は一番第4審寄りに着席する。メディカルスタッフには責任順の掲示は不要で「○」のみ記載でよい。

h,当日不参加の選手がいる場合、登録用紙兼メンバー表の選手氏名の部分に消し線を引く、また、前の試合で懲戒を受けた選手の懲戒欄に累積の数字を記載する。

i,必要事項の記載された登録用紙兼メンバー表は、電子選手証一覧と、指導者証・JFAID証・メディカル証(いる場合)と共にFP・GKそれぞれ(FPとGKはショーツ、およびソックスは異なる色)の正副のユニフォー

- ムと共に、自チームの最初の試合の30分前までに本部運営担当に提示しなければならない。時間厳守。
- j, ベンチスタッフが審判員を兼ねており試合前後の審判対応や、怪我人対応などの間にベンチ内指導者が1名になることは認められる。
- k, ベンチ指導者は、立つ・立たないに関わらずその都度1名のみ、その場で戦術的指示ができる。テクニカルエリアを設けないので、ベンチから離れたら指示することは出来ず、注意及び懲戒罰の対象となる。
- l, メディカルスタッフの戦術的指示は認められない。指示が発覚した場合は注意及び懲戒罰の対象だが、退場になる反則を犯しても、他に競技者の治療等に対応出来るスタッフが不在で、競技者に治療等必要と主審が判断された場合のみベンチに留まってよい。
- m, ベンチスタッフに不正行為があり審判が個人を特定できなかった場合は、登録用紙兼メンバー表に記載の責任順位最上位のスタッフに注意及び懲戒罰が命じられる。
- n, ベンチやその周辺で撮影のための電子機器や通信のための機器を使用することは不可で注意及び懲戒罰の対象となる。個人の撮影は大会本部役員が認めた場所からのみ可能とする。
- o, ベンチスタッフの代表者は試合終了後に主審が記載した【結果報告書】の内容を確認し、内容に間違いが無かったら、所定の箇所に署名する。
- p, **チーム指導者は選手の安全を最優先に考え判断しなければならない。例として選手の頭部への打撲があった場合、脳震盪を想定して速やかに当該選手を退けて、それ以降の当日の試合には出場させない。等**

5. 特別ルールを設けた場合と安全・安心第一の共有

- a, 感染症対応など行政からのルールや要請は、本大会要項より優先される。
- b, 熱中症対策は従来通り WBGT 計の指数を目安に対応する。感染症対応など特別ルールと相反する場面が出た場合は、より生命の危険度の高い熱中症対応を優先とする。
- c, 暴風雨や雷などの発生時も生命を守る対応を優先とする。

6. 競技会規定

① 競技会規則

- a, 日本協会 2025/2026 競技規則を基本とする最新のルールを適用する。例として GK が手でボールを保持できる 8 秒間の内残り 5 秒のカウントダウンを主審は発声する。
注) リハウス後期は同「2026/2027 競技規則を基本とする最新のルールを適用する」に変更します。
- b, 『8 人制サッカー競技規則』の最新版に準じるが、「東京都少年サッカー連盟大会要項」及び本大会要項細則が優先する。
- c, 前後期それぞれ **8 チーム以上のグループ** の総当たり戦で行う。前期の結果は『全日本 U-12 サッカー選手権 11 ブロック大会』の組合せと後期リハウスリーグのグループ分けに反映し、後期リハウスリーグの結果は次年度前期リハウスリーグのグループ分けに反映される。
- d, 後期リーグ 1 部の 1 位は、原則東京都 3 部昇格リーグに推薦される。3 部昇格リーグ戦は次年度の対象学年(現 5 年以下)が対戦する。

② 競技のフィールド

- a, フィールドの表面は天然芝、人工芝が望ましいがクレーでも可で、ライン表示はフラットマーカーの使用も可能とする。
- b, タッチラインは 68m、ゴールラインは 50m を基本とし、照度が十分確保されている事。交代ゾーンとしてベンチ側タッチライン中央から両側に 3 m のマークを設ける (5cm 離して 30cm の線)。ラインの引けない人工芝の場合はフルピッチのゴール位置マーク (中央から両側に 3.66m) の利用も可とする。

c,ペナルティエリア 12m、ペナルティマーク 8m、ゴールエリア 4m、ペナルティアーク及びセンターサークルの半径 7m、コーナーアーク半径 1m。

③ ボール

- a,両チームは 0.8 気圧にした 4 号公式認定級を**通常** 1 個ずつ、試合 10 分前の用具チェック時に持ち寄る。持ち寄るボールは基本各 1 個ずつだが、暑熱対応時にボールを取りに行くのに時間が掛かる会場と主審が判断した場合は予備球を (2 個ずつ 3 個ずつと) 増やしても良い。但しマルチボールシステムではないので、予備球からの配給は主審の指示で行わなければならない。
- b,主審は 0.8 気圧を基本として、そのボールにおいて適切な値を判断し試合球とする。

④ 試合形式

- a,8 人制(内 1 人が GK)で、8 チーム以上のグループでリーグ戦を行う。
- b,40 分(20h)の試合を土日で最大 2 試合(1-1 試合)もしくは(0-2 試合)、3 連休では(1-0-2 試合)又は(2-0-1 試合)の 3 試合は可とするが、2 連休で 3 試合は不可。
- c,熱中症対策などで試合時間を 30 分(15h)にすることにより、2 連休で 3 試合を認めるが、1 日で 3 試合は不可とする。延長戦や PK 戦は行わない。
- d,リーグ戦における順位決定方法
勝 3 点、引分 1 点、負 0 点、不戦敗-1 点で、勝ち点の多い順に決定する。勝ち点の合計が同一の場合は以下の項目順の優劣で順位を決定する。
1, 全試合の総得点－全試合の総失点の得失点差
2, 全試合の総得点
3, 当該チーム同士の対戦の勝敗
4, 上記すべてにおいて複数チームが同一の場合は抽選により順位を決める。
- e,不戦敗における得点は原則(0-3)だが、試合途中で放棄試合(不戦敗)になった時点での得失点差が 3 点より多い場合はそちらを採用する。
- f,40 分試合が基本だが、荒天などが続いて日程消化厳しい場合や熱中症対策などで 30 分の試合にする場合がある。インターバルは基本 5 分だが、熱中症対策でクーリングブレイクをインターバルに追加する場合もある。
- g,飲水タイムは 1 分を超えてはならない、クーリングブレイクは 90 秒～3 分間とし、アディショナルタイムとして扱う。アディショナルタイムは表示しない。
- h,自由な交代(GK を除く)ではあるが、飲水タイムやクーリングブレイク時を含め、常に審判の管理下において交代しなければならない。

⑤ 競技者・・・事前申請で承認印を押印されたメンバー表を印刷して使用する。

- a,承認された登録選手全員が用具チェックを受けてベンチ入りできる。全員が出場できるようチームは配慮する。登録外の選手や出場停止中や用具の不備の選手が「応援のため」という理由でベンチ入りすることは出来ない。
- b,追加登録や抹消の都度、再度申請し承認を得なければならない。移籍選手は承認されたら即出場できるが、全日本 U-12 に出場するためには 8 月 20 日までに移籍が完了していなければならない。
- c,フィールドプレーヤー(FP)は交代ゾーンから自由な交代とするが、ゴールキーパー(GK)の交代は主審が認めて試合が停止した時に行う。退く GK は自身から一番近いタッチラインかゴールラインから速やかに出なければならない。交代で入場する GK は交代ゾーンから入場しなければならない。交代要員はユ

ニフォームと異なる色のビブス等を着用する。

d,飲水はタッチライン上で行う。クーリングブレイク時は日陰で休息をとる。

e,飲水タイムやクーリングブレイク時での交代はハーフタイム時同様、常に主審の管理のもと行わなければならない。

f,一方のチームが8人に満たない場合は試合を開始せず、8人に満たないチームの放棄試合としてそのチームを不戦敗扱いとする。不戦勝は得失点(3-0)勝ち点(3)で、不戦敗は得失点(0-3)勝ち点(-1)となる。

g,試合進行中及び終了時、フィールド上に6人未満のチームは放棄試合として不戦敗となる。なお、主審の許可を得た用具直しや治療の場合はその限りではないが、早期復帰出来ない場合は主審の判断で競技を終結させる。不戦敗となったチームの得失点差は(0-3)であるが、終結した時点でそれ以上の得失点差だった場合は得失点差の大きい方を採用する。

h,競技者が退場を命じられた場合その競技者のチームは交代要員の中から補充して試合を再開できる。主審は補充完了まで再開しない。退場を命じられた選手は、精神面・安全面を配慮し指導者の管理の下ベンチに座らせて構わないが、他の控え選手とは明確に違う色のものを羽織らなければならない。退場者を補充しない選択肢もあるが、6人未満になった時点で試合を打ち切り不戦敗とする。

i,退場処分(1試合中に警告2での退場を含む)及び累積警告3枚(他の大会は2枚)となった選手は自動的に次の試合にベンチ入り含めて出場できない。内容によっては東京都少年連盟規律委員会で追加処分を与える場合がある。

j,選手は自チームの最初の試合の30分前に提出したメンバー表と選手証一覧を基に試合10分前に指定された場所に集合(時間厳守)して氏名と用具や累積の有無のチェックを受けなければならない。後から参加する選手がいない場合、メンバー表は提出したままで良い。

k,選手は必ず傷害保険(スポーツ安全傷害保険等々)に加入している事。

⑥ 競技者の用具・・・規定への抵触の確認は大会前に委員長へ照会する。

a,基本的に日本サッカー協会「ユニフォーム規定」に則るが、東京都少年連盟や、11ブロック独自の緩和措置もある。以下は必須事項

※チーム名やチームを示すエンブレムをシャツの前面に表示する(背面は任意)

※交代要員はユニフォームと異なる色(ビブス等)を着用する。

b,選手番号は規定(背面:縦25~35cm、全面:縦10~15cm)サイズを適宜縮小可能。

c,番号表示はシャツの背面及び前面に必須とする。ショーツには表示を推奨する。

d,ユニフォームは同じ番号の正・副持参し、背番号は試合固有の番号とする(11B ローカル)。胸番号と背番号は正しく固定されて明確に表示されること。

e,ユニフォームのメーカーのロゴの違いや微妙なデザイン変化、ソックスのライン数や購入時期による微妙な色の違いなどの細部には言及しない。黒や濃紺系のシャツについては、継続利用は認めるが新調する際はそれらの色の使用は不可とする。

f,試合には必ずFPとGKの正副をセット(FPとGKはショーツ、およびソックスは異なる色)で持参し、自試合30分前に本部運営に提示する。試合前には相手チームと相談して、どちらを着用するか決める。主審や本部にトスを依頼するのも可能。

g,ソックステープはソックスと同色でなくてもチームで統一も不要だが、アンダーシャツ、アンダーショーツもしくはタイツは、色は問わないがチーム内で統一とする。GKのアンダーシャツやアンダーショーツはFPと違う色でも良いが2人目のGKと同じものとする。

h, GKのユニフォームにおいてショーツとソックスはFPと同じものを着用しても構わないが最終判断は主審の為、FPと異なる色のGK用のショーツとソックスは必ず用意し本部運営に提示する。

- i, 戦略的理由による GK の交代(PK 戦時も同様)の場合、交代して GK になる選手は自身と同じ背番号の控え GK ユニフォームか、その試合で使用していない自身の FP ユニフォームを着用して対応することが出来るが、そのユニフォームの色が相手チームと被る又は同系色の場合は GK の交代は出来ない。
- j, 予期せぬ事態(ケガや退場等戦術的理由ではない交代)が GK に生じ、控えの GK もいない場合で FP が GK に交代する際は、その試合で使用していない自身の背番号の FP ユニフォームで対応可能だが、それが相手チームと色が被る又は同系色の場合は、色の被らない無地で背番号のないシャツか、退く GK が着用していた GK ユニフォームを着用して対応することが出来る。この時の背番具の変更は審判とコート本部は確実に書き留める。いずれの場合でもビブスの着用は不可とする。
- k, 2 人目までの GK のユニフォームは正副とも同じデザイン・色が基本だが、メーカーのモデルチェンジ等での多少の違いは問わない。また 3 人目からの GK ユニフォームは 2 人目までと異なるデザイン・色でも良いが、正副のシャツ・ショーツ・ソックスを揃え且つ FP と区別できる色とし、本人固有の背番号が表示されていなければならない。
- l, 暑熱対策として**飲水タイム・クーリングブレイク**など講じた上、さらなる熱中症対策として、つばが短く柔らかい素材の帽子の着用を認めるが、必ず主審の確認を受け、つばは後ろに向けること。
- m, 各チームのキャプテンを特定するためのアームバンド(キャプテンマーク)の着用は任意とする。アームバンドは市販されているメーカーのロゴ入りや単色でない物でも可とする。アームバンドの代用としてテープや包帯の使用も可能であるが、安全面は考慮すること。メッセージなどを書く、または刺繍やワッペンなどを施したアームバンドを着用することは認めない。キャプテンマークについては競技規則改正内容とは異なるが、東京都少年サッカー連盟が**25 年 3 末**に定めた内容を 1 1 ブロック内においても適用し今後の大会を進めることとする。

⑦ 審判・・・改正ルールを理解して実践出来る審判であること。 <https://www.jfa.jp/laws/>

- a, リハウスリーグの対戦は 4 人審判制(主審・副審 1・副審 2・第 4 審)で行う。
- b, チームに割り当てられる審判任務への対応として、有資格者で経験のある審判員を帯同させること。
- c, 審判の役割分担は抽選や順番ではなく【級・経験値・意欲】等考慮し試合前に 4 人で相談して決める。
- d, 審判員は必要に応じ審判資格証(アプリ画面)を本部運営に提示し確認を受ける。
- e, 審判員は【審判用に販売されている審判服】の着用を必須とする。(黒のハーフパンツ等は NG) ベンチ入りする場合は審判服を着替えるか上着を羽織る。
- f, 審判員はワッペン・笛・トスコイン・時計・懲戒カード・記録用紙・ペンを揃えて審判を行う。グリーンカードは推奨する。副審用のフラッグも審判員が持参することが原則だが、運営担当等から借用することは認める。
- g, 主審・副審・第 4 審は、割り当てられた試合の 10 分前の用具チェック時に合わせて指定の場所に集合し(時間厳守)、ボールの確認とメンバー表を基に両チームの選手の背番号や氏名を確認し、用具チェックとして、シューズ・スネアテ・装飾品の安全の他、ユニフォームが規定内か背番号や胸番号、エンブレムやチームロゴの表示が明確に固定されているかを確認する。これらは試合進行を円滑に進めるために本部運営担当が補助しても良い。
- h, 主審は担当試合の終了後、速やかに副審・第 4 審・コート本部と記録を整合の上、「結果報告書」に得点と懲戒の有無を記載し署名する。両チーム代表者は結果報告書の内容に同意したら、それぞれの署名欄に署名する。
主審は結果報告書に記載署名した後に「審判報告書」を記載し本部運営に提出する。
- i, 自チームの試合の前後に審判を割り当てられた審判員がベンチ入り指導者 2 名に含まれる場合、審判対応の間ベンチスタッフが 1 名になることは認められる。

- j, 競技者に退場を命じてチームが交代要員から競技者を補充している間、主審は試合を再開させない。
- k, メディカルスタッフのコーチングを確認もしくは報告を受けた場合、主審はそのメディカルスタッフに警告する。繰り返す場合は退場を命ずることが出来るが、警告2枚を含む退場となったメディカルスタッフは、他に対応できる医療スタッフが不在で競技者に手当が必要と主審が判断した場合、ベンチに留まることが出来る。
- l, 高温多湿で、その場の役員と相談のうえで飲水タイムやクーリングブレイクが必要と判断した場合は、試合開始もしくは後半開始前に両チームに伝え実施する。
それらはアディショナルタイムをカウントする。
- m, 主審はベンチ入り指導者の不正行為に対して警告や退場を示すことが出来るが、不正を働いた指導者が特定できない場合、メンバー表の指導者名の横の責任番号最上位の指導者に警告や退場を示す。前もって最上位責任者の着席位置を第4審に最も近い位置に指示することが出来る。
- n, 審判員はチームスタッフや運営・観戦者・役員の誰であっても、不誠実な行動を取ったと認識した場合「審判報告書」や匿名の「その他報告書」に記載して委員長もしくは競技部宛に報告する。
- o, 競技運営を円滑に進めるために各市から選出された11ブロック審判部員が各会場に配置され、試合における疑義や問題事に対してアドバイスする場合がある。

⑧ 大会前の準備

- a, 大会前には「登録用紙兼メンバー表 excel」にチーム名・代表者名・連絡者名と連絡先・選手名・選手証番号を記載し、「顔写真付きの電子選手証一覧 pdf」と共に、11ブロック申請用アドレス【entry@11b.tokyo】宛に添付して申請し、承認印押印済みのpdfで返送された「登録用紙兼メンバー表 pdf」をプリントアウトして試合で使用する。他の項目は申請時には任意とし、試合当日の手書きも可能とする。

⑨ 試合前から試合後・・・30分前と10分前は時間厳守

- a, アイシングの氷は必ずチームで用意し、ベンチ入りの際持参すること。
- b, 第1試合のチームは提供チームや提供市のチームの指導のもとグラウンド作りを行い、最終試合のチームは同様に後片付けやグラウンド整備を行うことが原則だが、会場により第2試合目までのチームが準備、最終2試合のチームが後片付けや整備を行う事を指示する場合もある。全チーム協力のもとの大会運営とする。
- c, チームの最初の試合の30分前までに承認済で必要事項が記載されたメンバー表を、電子選手証一覧とベンチ入りスタッフすべてのIDとFP&GKの正副ユニフォームと共に運営本部に提出しなければならない。
- d, 試合開始10分前までに0.8気圧の試合球1個を持参し、参加選手全員が指示された場所に集合して用具チェックを受ける。
- e, 用具チェックを受けた競技者は審判の管理下から離れることは出来ない。離れた場合は再度用具チェックをする。(指導者はチェック後の選手を集めない)
- f, 試合終了後チームの代表者は主審が記載した結果報告書の内容を確認し署名する。当日の全試合終了後のメンバー表は運営本部が回収する。

⑩ 運営担当

- a, 各試合に2名(主に1名ずつ×2チーム)の運営担当を割り当てるので、運営担当業務を理解しているチームスタッフが、最初の担当試合の30分前のチェックに対応できるように、基本的に1時間前に来

場して準備すること。

- b,運営担当を保護者に依頼しても良いが、必ず業務内容を理解してもらう事。ただいだけで何もしな
者や、複数人引き連れて試合の応援をすることは禁止。本部業務を行わない者は本部に留まることは出
来ない。但し業務内容を理解しているが、慣れていない初心者に対しては、慣れた付き添いを1名伴う
事は可能とする。
- c,対戦表運営欄で第1試合の左側に記載されたチームは当日そのコートで行われる全試合の審判報告書と
結果報告書・懲戒台帳・その他報告書を持参する。
- d,対戦表運営欄の最終試合の右側に記載のチームは報告書やメンバー表の回収と報告業務を担当する。
報告内容として全試合の結果が記載された「結果報告書」、懲戒のあった試合の「審判報告書」、退場が
あり記載された「重要事項報告書」、記載のあった場合の「その他報告書」、懲戒のあったチームの「メ
ンバー表」のみ、pdfもしくは鮮明な写メで、自チームのグループML宛に、試合の当日中速やかに添
付配信する。他の資料は後日競技部に手渡しする。全てを当日手渡しでも良い。「その他報告書」が匿名
の場合はMLには配信せず、競技部か委員長に直接報告する
- e,運営担当は空気圧計と空気入れを持参し用具チェックを補佐する。
- f,運営担当は高温多湿の時期には WBGT 計を持参し、所定の位置に設置して KO 時 HT 時の数値を結果
報告書の所定欄に記載する。危険な数値が示されたら本部役員に伝え審判部と共に中断の判断を委ねる。
- g,落雷事故防止対策として「気象注意報」や「雷ナウキャスト」等を利用して雷に備え危険な条件が揃う
前に本部役員に試合の中断を促す。
- h,各チームの最初の試合30分前までに、登録用紙兼メンバー表の承認印、ベンチスタッフの氏名とID及
び指導者証とJFAIDの番号の照らし合わせと責任順位、当日の欠席選手名に消し線、移籍欄・累積欄の
確認に加えFPとGKのユニフォーム正副揃っているかを確認する。
- i,ベンチスタッフの不正行為を発見したら第4審を通して主審に伝える。複数名同時のコーチングや、ベ
ンチから離れてのコーチング及びメディカルのコーチングも発見の都度第4審に伝える。
- j,試合終了後、主審が確認の上、結果報告書を記載及び署名したら、両チーム代表者に署名してもらい、主
審には審判報告書を記載するよう促す。
- k,選手・スタッフ・審判・役員・観戦者の不誠実な言動を確認した場合、委員長もしくは競技部に相談及
び「その他報告書」に内容を記して報告する。匿名可。
- l,最終試合終了後運営担当は、結果報告書と審判報告書の内容に相違が無いかを確認する。相違があった
場合は審判や両チームに確認し修正して報告する。

⑪ 警告・懲罰及び再試合

- a,前後期を通し期間中に退場や警告を3回受けた選手やスタッフは、自動的に次の1試合には出場できな
い(リハウスのみ3回、他大会は2回)。累積は次年度には継続せず、リハウス後期終了後に消滅する。
内容によっては東京都少年連盟の規律フェアプレー委員会へ報告の上、それ以上の懲戒措置が与えられ
る場合もある。
- b,競技者が退場を命じられた場合、試合が再開される前に交代要員の中から補充することが出来る。主審
は交代が完了するまでプレーを再開しない。
退場を命じられた競技者は、精神面・安全面を考慮した場合、ベンチに留まることが出来るが、必ず主
審の許可が必要で、他の控え選手と明確に違う色を着用させる。
- c,試合が両チームの責任なき理由(天災・悪天候・暑熱対策・施設又は大会運営事由)
により開催不能や中断及び中止となった場合の再開や再試合に関しては【東京都少年サッカー連盟の
「大会の競技規定」や「悪天候・暑熱対策」に従う。

d,試合が一方あるいは両方のチームの責任における事由（集合場所への遅刻、選手証・指導者証などの証明書不携帯、人数不足、差別的言動・暴力・破壊行為、公文書偽造、会場ルール違反）などにより主審や本部役員が開催不能または中止と判断された場合は以下の対応とする。

A,一方のチームの責任による開催不能や中止の場合

- ・そのチームの放棄試合として不戦敗扱い
- ・不戦勝は勝点が3：得失点が(3-0)で、不戦敗は勝点が-1・特失点が(0-3)だが、中止の時点で3点以上の得失点の場合はそちらを採用する。

B,両方のチームによる開催不能や中止

- ・原則『再試合』とする。
- ・やむを得ない事情で再試合が出来ない場合は、両チームとも勝ち点0、得点0、失点-1とする。

なお、内容によっては東京都少年連盟に報告し懲罰を受ける場合がある。

e,試合中ベンチやその周囲での撮影は動画も静止画も不可で通信機器(スマホ等)の使用も一切出来ない。

それらが確認されたら注意及び懲戒罰の対象となる。

f,個人の承諾無しに、個人が特定できる本大会に関する動画・静止画・文章を SNS 等への投稿は禁ずる。

g,11ブロック及び東京都少年サッカー連盟のHPや発行物に、大会結果やチームや個人の写真が掲載されることがありますが、これ等に関しては大会参加申し込みをもって了承されたものと認識します。

h,サッカーに対し敬意の無い行為（過激な応援・ヤジ・審判へのクレーム等）を行ったチーム（選手・コーチ・応援含む）や、会場ルールを守らないチーム（選手・コーチ・保護者・他チーム関係来場者）があった場合、それらは各報告書などでブロック委員長に報告され、委員長からの注意喚起で対処するが、悪質な場合は東京都少年サッカー連盟へ報告して判断を仰ぐこととする。

【参考資料】

◆サッカー競技規則 https://www.jfa.jp/laws/soccer/2025_26/

◆8人制サッカー競技規則 <https://www.jfa.jp/documents/pdf/eight/rules.pdf>

◆熱中症ガイドライン https://www.jfa.jp/documents/pdf/other/heatstroke_guideline.pdf

◆悪天候時・暑熱対策の措置

http://www.u12tfa.jp/custom_contents/cms_rwd/linkfile/2024_renmei_youkou_1.pdf